

## 頸城放山、白馬鷓峰山行報告

参加者 和佐、前田、青松、山田

2月8日（土） 頸城放山西尾根

今シーズン最初で最後の寒波になるのではとの期待と不安を抱いて、積雪の多い頸城まで遠征することに。未明に能生 IC を降りて、コンビニで仮眠。まさかの土砂降り雨。気温も十でパウダー期待は吹き飛んでしまった。

それでもせっかくなのだからとシャルマン火打スキー場に向かう。近づくにつれ降雨から降雪にかわり、周囲の積雪も増えてテンションが上がり始める。

スキーリフト（500円）を1本のって（8:30）、降場でパトロールに入山を告げる。行く予定の西尾根は、昨年行った時には快適なルートで2時間程度で往復できたことから、2回回そうかとも考えていて、その旨パトロールに伝え、非常にネガティブな反応であった。後から考えるとそれが現実化した。

入山当初から藪が多く、普段は快適に下れる池までも藪を避けながらの滑走であった。池の平地についてシール登行開始（9:00）。うっすら残った前日のトレースを追いながらピーク到着が9:45。ここまでは順調だったが下り始める（10:05）と早速方向を間違えてコースミス。そもそも複雑な地形であるが、積雪不足で、谷が埋まっておらず、地形図に現れない程度の細かな谷がいたるところに深く現れており、それをトラバースするのに時間と体力を消耗する。雪質は重く深い。ほとんどの緩い下りでは、下りラッセルを強いられる。

シールをつけない状態では、目の前の地形で選択肢は限られていて、一度深い谷方面に出てしまうと、尾根に戻るのには容易ではなかった。地図とにらめっこしながらコースを選び、最後にはシールを付けなおして尾根に戻ることを選択する。苦労を繰り返し、スキー場横の橋に到着したのは12:45。スキー場に戻ったのは13:10。実に3時間以上、滑降に費やしたことになる。湿雪が降り続いていたこともあり、衣服もびしょぬれ状態であった。

当然2回目はなく、寒さに耐えかねてさっさ宿に向かうことにする。

能生のスーパーで鍋の食材を調達し、長者原温泉ゆとり館に素泊まり（4500円）。

予定では明日笹倉温泉からの山行を考えていたが、さらに標高の低い笹倉では苦労が多いと判断し、白馬に行っているN氏に状況を聞いて、白馬に転身することに決定。



別山西尾根トラクトラク図



湿雪深雪での苦行

